

# 田子の浦港の歴史

平安時代頃から「吉原湊」と呼ばれ、富士講などの登山客にも利用されていた。鎌倉時代に入ると、軍事的な利用もされ、歴史とともに変遷してきた。



富士参詣曼荼羅図（室町時代）  
（重要文化財・富士山本宮浅間大社蔵）  
写真提供：富士市立博物館



明治の吉原湊

築港前の沼川口（吉原湊）は景勝地として名高かった。沼川と潤井川の合流地点に出来た三角州（喜歳島）から、昭憲皇太后、皇太子（大正天皇）が行啓された折、沼川石水門（防潮水門）の下に映る「逆さ富士」をご鑑賞されたのを記念して記念碑が建立されていた。そのあたりの両岸は古い松林が茂っていて、その緑に逆さ富士が映えて素晴らしい眺めであった。この碑は、現在「ふじのくに田子の浦みなと公園」の一角に移設されている。



逆さ富士

当地域（岳南）は、江戸時代から「駿河半紙」の特産地として名高く、近代になると、製紙・パルプなどの軽工業が発達した。戦後は、食品加工・化学繊維・自動車・電機などの大企業が進出し、加えて関連中小企業の設立や設備投資が相次ぎ、新しい工業地域として脚光を浴びようになった。昭和30年代、県は産業基盤整備を重点とした総合計画を策定し、昭和33年4月から修築工事に着工した。工事は海底勾配が急峻で、漂砂の影響を受ける厳しい自然条件の中で進められ、富士南岸壁が完成したことにより、昭和36年8月に開港した。

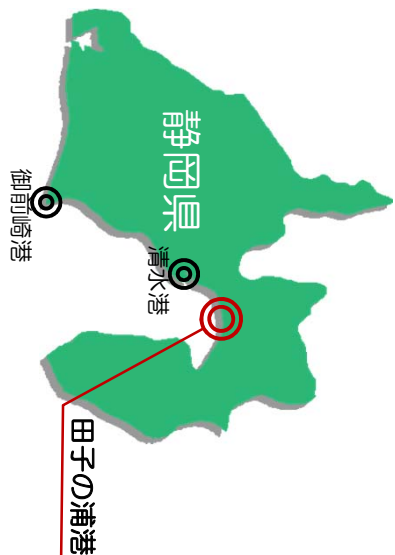


昭和33年 築港前の様子

その後、着々と整備が進められ、昭和41年4月に開港法による「開港」指定を受け、平成28年に開港から50年をむかえた。「開港50年、未来に向けて田子の浦港」田子の浦港では、安全で、使いやすい、親しまれるみなとづくりを進めている。



現在の田子の浦港



田子の浦港周辺案内図

- ① 富士塚
- ② 砂山公園
- ③ 阿字神社
- ④ 富士と港の見える公園
- ⑤ 田子の浦弘舎利塔
- ⑥ 見付ヶ跡
- ⑦ 沼川・和田川河口
- ⑧ 沼川石水門記念碑
- ⑨ 潤井川河口
- ⑩ 日露友好150周年記念碑
- ⑪ 江川水門跡
- ⑫ 富士山しらす街道
- ⑬ 齋藤寿夫像・船山啓治郎像
- ⑭ ふじのくに田子の浦みなと公園
- ⑮ 山部赤人歌碑
- ⑯ 浜辺の展望広場
- ⑰ デイアナ号の錨

H28年10

制作  
静岡県田子の浦港管理事務所  
〒417-0015 静岡県富士市鈴川町2-1  
TEL 0545-33-0495  
FAX 0545-33-1009  
URL : <http://dobokujipref.shizuoka.jp/desak3/tagonoura/index.htm>



# 田子の浦港 みなとまきごと 富士見館

吾郷のらび園アミヤの熊のま田コくのり

# 田子の浦港 みなとまるごと 富士見館 散策マップ

富士山に一番近い港、田子の浦港の周辺には、たくさんの富士見スポットがあり、港の歴史を刻む記念碑など、見所も点在しています。カメラ片手にぶらりと歩きまわってみてはいかがでしょうか？

⑨ 潤井川河口部



富士山の麓頭部大沢を源流とする潤井川は、地下水湧水の支川もあり、往時から農業利用などに供されてきた。築港と併せ、ゆきしろ等の流下土砂対策として、河口部に沈砂池が造られている。

⑧ 沼川石水門記念碑



湊口からの波浪・高潮との戦いが吉原湊時代の象徴であった。第一次石水門は、明治3年2月に着工したが、同8年5月の防風によって壊滅し完成には至らなかった。その後、海水の逆流による被害が益々顕著になり、明17年4月、第2次石水門に着工、明治19年5月に竣工した。その後、数次の改修を行なった。「六ツ眼鏡」の名で親しまれたが、現在の田子の浦港の築造により役目を終えた。

⑦ 沼川・和田川河口



沼川は、愛鷹山麓を水源とする暖勾配の河川で、流域は古富士地質で浸透性が低い。河口部は、古くから治水防災上、石水門が建設されるなど重要な地であるとともに、逆さ富士の名勝地としても有名であった。現在も往事をしのばせる。

⑩ 江川水門跡



吉原湊の江川は、高浪等による遡上波によって付近一帯の田畑を押し流し住民を悩ませていた。このため、石水門が築造され、上部は鈴川街道として利用された。その後、両開き水門に改修されたが、近年の上流部の都市化、田子の浦港の漁港区改修を契機に、永年の役目を終え平成10年に取り壊された。

① 富士塚



地元では、浅間山、天香久山と呼ばれている。玉石が積まれた小高い丘。室町時代、一般庶民でも富士登山をする者が増え、富士山信仰（富士講）が盛んになっていった。室町時代から江戸時代にかけて、吉原湊に上陸した富士道者が、登山の安全を願って捧げたものであろう。（鈴川の歴史）

⑪ ティアナ号の錨



江戸時代末期に、三四軒屋沖まで流され沈没したティアナ号の海底に沈む錨は永らく、「唐人のねっこ」と語りつかれて来た。その錨は昭和51年8月、水深24mの海底から引き揚げられ、現在は三四軒屋公園にある。

⑫ 富士山しらす街道



田子の浦港に水揚げされるしらすは、富士山の伏流水や独特の漁法（一船曳）などにより鮮度が良く美しいと云われている。この沿線の道を「富士山しらす街道」とネーミングし、新たな観光商品として打ち出されている。また、毎年6月第4日曜日には「富士山しらす街道フェア」、9月第4日曜日には「しらす祭り」が行われている。

⑬ ティアナ号 - 歴史学習施設 - 日露友好150周年記念碑



ティアナ号は江戸時代末期、ロシアのプチャーチン提督が乗り込み、日本に開国と通商を求めて来航した木造帆船の軍艦。安政元年に入港、安政地震による津浪で大被害を受け、修理のため戸田へ回航する途中、暴風雨で遭難し、三四軒屋沖まで流され沈没した。地元住民の救助活動により約500人の乗組員が救助された。歴史学習施設として設置したティアナ号は、室内に歴史等展示パネルを設置。記念碑は、日本とロシアの交流が始まった1855年から150周年を記念して、ティアナ号ゆかりの地である富士市、下田市、沼津市戸田、ロシア・サンクトペテルブルクに立てられた。（富士埠頭から移設）

⑭ 齋藤寿夫像・船山啓治郎像



田子の浦港は、田子浦村出身の船山啓治郎氏と齋藤寿夫氏、そして多くの郷土に縁ある人々の熱意に支えられ完成した。富士市と合併する前まで村長職にあった船山啓治郎氏は、岳南地域の発展のために田子の浦港の築港を構想し、同氏の熱意により「田子の浦港修築期成同盟会結成準備協議会」が組織され、その活動により港湾管理者が設立されるなど着工への足掛かりが整った。同じく田子浦村出身である齋藤氏は、静岡県総務部長などの要職を務め、部長時代には船山氏の計画に理解を示し、関係者の活動を支えた。その後、四期に亘り知事を務め、田子の浦港の建設や優良企業の誘致に尽力した。緑地内には、二人の功績を讃える胸像のほか、昭憲皇太后行啓記念碑など数々の碑が設置されている。

⑮ ふじのくに田子の浦みなと公園



当港の西側海浜の一部を、港から発生した浚渫土砂により埋め立て造成し、港湾緑地を整備している（全体面積約7.6ha）。整備計画の策定に当たっては、地元との協働により設計を進め、平成18年に緑地部分の整備に着手、平成25年6月に一部整備を残し全面供用開始した。展望の丘からは、航路を航行する大型貨物船を間近に見ることができる。平成23年2月、「富士山の日」を記念した富士見の祭典「田子の浦港築港50周年記念式典」において、一般公募により愛称「ふじのくに田子の浦みなと公園」と命名した。

⑯ 山部赤人歌碑



「田子の浦うち出でて見ればま白にぞ富士の高嶺に雪は降りける」と詠んだ奈良時代の歌人山部赤人の歌碑。昭和60年3月、富士市教育委員会により富士埠頭に建立されたものを平成24年3月、ふじのくに田子の浦みなと公園内に移設した。

⑰ 海辺の展望広場より（大型船舶航行状況）



⑱ 富士と港の見える公園



田子の浦港の築港と併せて、風光明媚な公園として整備された。富士山と港が一望できる。

⑲ 見付け跡



鎌倉時代、この辺りに見付けが構えられ、東海道を往来する人を探め、吉原湊から対岸の前田まで船渡しをしていた。その後、南北朝から戦国時代になると、吉原湊が軍事的、商業的に重要視された。しかし、この地は、湊からの高波や、砂丘からの漂砂の被害がひどく、天文年間に、今の鈴川、今井地区へ所替えされた。

⑳ 阿字神社



阿字神社は、その昔（天正）三ツ又淵の毒蛇に人身御供としてその身を捧げし人々の難儀を救おうとした少女阿字と善竜と化した八大竜王をこの地を守る水徳の神として祀ったものである。この里宮はその神徳があまねく田子の浦港並びにその周辺にまで及ぶことを祈念して、港口清浄なるこの地を選び新たに社殿を建立された。（昭和54年3月吉日鈴川区管理委員会）

㉑ 砂山公園



鈴川海岸地帯は砂丘地帯であり、往事から自然堤防として活用してきた。今日、海岸堤防の上を公園として利用されている。